すわみつえ通信

No.３８８　２０２６年 1月5日

日本共産党鴻巣市議会議員
諏訪　三津枝

連絡先　鴻巣市赤見台3-2-7
TEL：596-9440 FAX：507-4151
携帯：080-5039-2785
E-mail：mi-suwa@ezweb.ne.jp
mitsue-suwa@jcom.zaq.ne.jp

WEBで　すわみつえ

身近な議員として　もっと届けたい声がある　声をかたちに

新年明けましておめでとうございます

年明けの1月4日に、「トランプ米政権が、無法で前代未聞の『麻薬密輸船』空爆を行い、海・空軍力を大規模動員して、ベネズエラのマドゥロ政権に圧力をかける政策を実行」のニュースに愕然としました。

日本共産党は「国際法に反する武力行使とその威嚇は、どのような名目であれ、どのような事情であれ、許されません」と報じました。穏やかなお正月が一瞬にして、戦火にあるガザの子どもたち、ウクライナの平和を希求する人々へと気持ちが動きます。

高市政権における戦争準備にノーを突きつけ、平和と民主主義の正念場の年に地方議員のひとりとして全力をつくします。

日本共産党前中央委員会議長の不破哲三さんの訃報に際して

日本共産党中央委員会名誉役員で前中央委員会議長の不破哲三さんご逝去の報が年末に走りました。

２015年の浦和駅での伊藤岳さんの選挙応援に駆け付けてこられた不破さんの演説に魅了された聴衆がさらに熱く燃えた夏でした。議員活動の学習をした1冊で改めて学びなおしをすることと、亡くなられた七加子夫人の書下ろしで不破さんの人柄を偲びたいと思います。

私は、結婚して住んでいた荒川区（旧東京6区）の都電が通る小台銀座商店街で不破さんの宣伝に同行したことが思い出です。

【俳句コーナー】

身に沁むや嫁御の味の雑煮かな
瑠璃子

昨年のすわみつえ通信No.387に掲載いたしました俳句で「冴ゆる」を「冴えゆる」とする誤りがありました。

訂正してお詫び申し上げるとともに再掲載いたします。

冴ゆる月七時間のちガザの空
瑠璃子

年末はダウンしました

12月27日に突然、扁桃腺がゴロリと腫れて唾を飲み込むだけでも激痛が走るようになりました。

さらに、左目が幕を張ったように霞み、瞼が垂れ下がる事態に。このまま目が見えなくなるのではと恐怖におちいりました。

年末年始で病院は休みのため、休日当番医を調べ受診。インフルエンザとコロナウイルスの検査を受け陰性が確認でき安心。処方薬を飲み切り、元気にお正月を迎えることができました。

60代最後の1年は、転倒2回と年末のダウンで締め括る結果となりました。

毎週朝 駅頭においてホットなニュース「すわみつえ通信」をお届けします。

（月）吹上駅南口　（火）北鴻巣駅東口　（水）北鴻巣駅西口　（木）吹上駅北口　（金）鴻巣駅西口

不破哲三さん死去　日本共産党前中央委員会議長

日本共産党中央委員会名誉役員で前中央委員会議長の不破哲三（ふわ・てつぞう、本名・上田健二郎）氏は、2025年12月30日、急性心不全のため東京都内の病院で死去しました。95歳でした。

1930年1月26日、現・東京都中野区野方に生まれ、1946年9月、旧制第一高等学校（現・東京大学教養学部）に入学。翌47年1月に日本共産党に入党し、53年3月、東京大学理学部物理学科を卒業しました。

70年に党書局長に選出、その後、党委員長に選出。2006年まで党中央委員会議長をつとめました。1969年の衆院選で旧東京6区から出馬し初当選、衆議院議員を連続11期34年間にわたってつとめました。

不破氏は、1964年に開始されるソ連共産党からの干渉、66年に開始される中国・毛沢東派からの干渉という、二つの大国からの干渉攻撃に対して、相手の攻撃を打ち破る論戦を展開し、党の自主独立の路線を発展させるうえで重要な役割を果たしました。

不破氏は、自主独立の立場から、「マルクス・レーニン主義」の名で、スターリンなどによって歪曲された理論を、マルクス・エンゲルスの本来の立場で根本的に見直し、刷新する活動の先頭に立ちました。それは「議会の多数を得ての革命」、「未来社会論」など、科学的社会主義の全分野におよび、その成果は、2004年の党綱領の全面改定に生かされました。

新しい『マルクス・エンゲルス全集』の到達点を踏まえて、『新版　資本論』（19～21年）の刊行に大きな役割を果たしました。　　［しんぶん赤旗　2025年12月31日付］

「革命家」に転じた軍国少年　歴代首相と白熱論戦―不破哲三さん

不破哲三さんは、40歳で党書記局長に就き、党本部の所在地にちなみ「代々木のプリンス」と呼ばれた。2004年の党綱領の全面改定を主導し、天皇制や自衛隊を容認するなど、「柔軟路線」をとった。

国会では18人の歴代首相と白熱した論戦を繰り広げ、相手に敬意を払うことも忘れなかった。マルクス研究で科学的社会主義を探求し、第一線を退いた後も「理論的支柱」として党内に影響力を保った。

「1945年8月15日、敗戦の瞬間まで典型的な軍国少年だった」。2017年7月の講演で、自らの少年時代をこう振り返った。リベラルな教育運動家の父の下で生まれたが、戦時下で「教育勅語と軍人勅論をたたきこまれて育った」という。価値観を一変させたのが終戦だった。父の影響で「赤旗」復刊第1号から読み、思想、理論を学んだ。

佐藤栄作氏以降の歴代首相と、入念な準備を基に激しい論戦を交わした。「（相手が）どう出てきても反撃できるように、必要と予想される資料はテーマごとにノートに張り込んだ」。89年、竹下登氏への質問では10数冊のノートを持ち込んだ。回想録では「一番面白かったのは田中角栄氏。官僚を通さず、自分で仕切る実力を感じさせた」と評価した。

2017年7月、87歳で行った講演で「野党共闘は、さまざまな困難はあっても日本の政治に展望を開く力を持つ」と力説した。翌18年3月のインタビューでも「党名は堅持する。党名を変えてうまくいった政党はない」と鋭い眼光で訴えた。　　［2025年12月30日・31日付　報道機関から］